

令和2年度入学式 式辞

春の麗らかな陽差しを受け、春風が心地よい今日の佳き日に、ご入学される新入生の保護者の皆様をお迎えし、茨城県立藤代高等学校の令和2年度入学式を挙行できますことは、私たち教職員一同にとってこの上ない慶びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました240名の新入生の皆さん。ご入学、おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長された我が子の晴れ姿をご覧になり、さぞや頼もしく感じておられることと存じます。心からお慶び申し上げます。

高校生としての第一歩を踏み出す日に当たり、本校教職員を代表いたしまして、新入生の皆さんに、お祝いと激励の言葉を申し上げたいと思います。

皆さんは、本校を志望校に選び、思い通りの希望を胸に、本日、晴れて本校の生徒となりました。本日の感激は、皆さんの努力とともに、皆さんを今まで育て励ましてくださった保護者や中学校の先生など多くの方々のお陰でもあります。これらのご恩に対して「感謝」の気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

さて、本校は、昭和48年、旧藤代町域初の全日制普通科の県立高等学校として現在の地に創設して以来、地域に信頼される学校としてその歴史を重ね、同窓生も一万余名を数え様々な分野で活躍をしています

本校での高校生活のスタートに当たり、私から皆さんにお願いしておきたいことがあります。

まず1点目ですが、小さくてもいいですから「心に灯火（ともしび）を灯す」ということです。

私の好きな言葉に「Where there's a will, there's a way.」というものがあります。

「意志あるところ 道は開ける」という意味ですが、まずは、小さくてもいいですから心に^{ともしび}灯火を灯すことです。この言葉を胸に刻んで、今後の夢や目標を追いかけてほしいと思います。

2点目は、本校校是の一つでもある「礼節を重んずる」ことです。

本日は、このような状況の中、例年になくご不便をおかけしながらの式となり申し訳ありません。しかしながら、どんな状況の中でも大切に育てていかななくてはならないもの、これだけは曲げられないものがあります。例えば、ありがとう、ごめんなさい、を素直に言えること。周りの方に対する感謝の気持ちと、間違ったときのおわびの言葉。この言葉を大事にするだけで、結構世の中はスムーズに回るものです。

私はこの点については、赴任早々、４月１日の最初の職員会議、そして、昨日、大変残念ながら放送で実施した始業式における校長講話の中で、先生方、そして在校生の皆さんにお願いしたところです。新入生の皆さんもぜひ、この点について心にとどめておいてください。

さて、保護者の皆様におかれましては、お子様のご入学、誠におめでとうございます。これまでの義務教育９年間が終了し、入学試験を経て本校にご入学されましたことは、保護者の皆様にとって一つの区切りであり、本日のお慶びも一入ではないかと、推察申し上げます。先行き不透明な日々が続くと思いますが、本日からは、職員一同、皆様の大切なお子様を大事にお預かりさせていただきますので、今後、保護者の皆様のご支援・ご協力を頂戴できますよう よろしくお願い申し上げます。

多くの皆様からのご支援を得ながら、新入生の皆さんが、本校において充実した学校生活を送り、素晴らしい夢を見つけ、その夢を実現していくことを期待いたしまして、式辞いたします。

令和２年４月７日

茨城県立藤代高等学校長 田村 和浩